

6. 5 年少労働者の教育について

名古屋大学 小堀 勉
東京大学 細谷 俊夫

第三部 会

人間の社会科学のなとらえ方
— デューイの方法論を中心にして —

東京都立大学 太田 卓

一 問題のはじまり 復活する修身科的傾向の理想的人間像は勿論、現在地域社会の教育計画で目標とすべき人間像の設定の場合でも、具体的に生さうとしている社会の分析と目標とすべき人間との方法的運関がはつきりしていない。

(四〇)

それは人間像のとりえ方を哲学的抽象の世界におき、社会の科学的分析と運関をもたせなかつた今迄の社会的制約とそこから生れてくる思惟態度から来ている。

この運関問題をアメリカという近代社会からあきらかにしたデューイの方法論をもう一度検討し、その角度からのわれ／＼の思惟操作方法の反省をし、同時にデューイ自身のもつ限界の認識（歴史的社会的なとらえ方）（アメリカ的方法）をもしつてみたい。

二 方法上の考察点 彼は個人と社会とは相互運関（インタラクション）によつて結ばれた密接不離な二重構造をもつた同一生活体の謂なのだとみる。これはジームズの生物的心理主義の立場からミードの社会的心理主義 *Social Behaviourism* へのプラクティズム的發展の中に具体的に捉えられる。

デューイは人間の形成過程を帰納的実験的に捉える立場を *School & Society* においてあきらかにし、*Democracy & Education* において

体系化していったが、この論理は *logic* のシ
 ンセーシオン論の中に *calabi* 心理学の場の概
 念のさきかげとして捉えられている。^①

このようにして彼は社会的場に生きるさま
 ざまと人間のあり方を巨視的・心理的な連関
 係・インテラクションによって客観的にとらえ
 抽象思考の世界に実験分析の方法を導入する
 ことと可能にした。^② (*Human Nature & Conduct*
Experience & Nature. Quest for Certainty)

しかし恐慌(一九二九)以後、特に社会の心
 的構造の面だけでなく経済・政治・文化・史
 的というような角度からとらえる立場に迫ら
 れアメリカにおいて興隆する社会諸科学の綜
 合が可能にしていたが、この問題を充分参考
 にし、同時にその方法論をわれわれの社会に
 適用するための限界認識をもしていうてみた
 い。

※①②③の文脈にしたがって考察をし、特
 に③③の連関問題に重点をおきたい。

2 教育法の理念と現実の

乖離についての一考察

広島文理科大学

歓喜隆司

近代市民国家、市民社会に於いては人間の
 市民社会的自由、平等、独立性こそ根本思想
 であつたが、教育に関する法も近代市民国家
 の市民社会に於いては一貫してこれの具現への
 努力の歩みであつたといえよう。斯様な根本
 理念が常に現実社会に生きた法として立法化
 され且つ又、実施されているとはいえないで
 ある。

本研究はこのような教育法の理念と現実の
 乖離の一側面を、広島市内の奥野調査を参考
 としつつ、考察せんとするものである。